

第7回 みたけ創生有識者会議 概要

とき 平成30年6月25日(月) 午後7時00分～午後9時15分

会場 御嵩町役場 第一委員会室

出席者(敬称略)

有識者		事務局	
氏名	所属	氏名	所属
小林 智尚	岐阜大学	長屋 史明	企画調整担当参事
黒田 晃司	東海化成工業株式会社	小木曾 昌文	企画課長
永谷 嘉規	ながたに農園	日比野 克彦	企画調整係長
齊藤 公彦	学校法人荻須学園	丹羽 英仁	企画調整係員
永井 明子	岐阜県庁	安藤 裕之	企画調整係員
重政 伸司	御嵩町金融協会	陪席者(事業実施部署)	
水内 智英	名古屋芸術大学	山田 敏寛	まちづくり課長
伊左次 一郎	総務部長(御嵩町役場)	渡辺 一直	環境モデル都市推進室 副室長
		伊納 和昭	農林課 農業振興係長

※柴田 永治様(ジャーナリスト)にあつては、ご都合により欠席

あいさつ

<総務部長>

・お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。いよいよ総合戦略の計画期間が後半に差掛かってまいりました。昨年度実施しました地方創生推進交付金事業に関わる効果検証を主にご審議いただきたいと思います。少しずつではありますが、住民の方々が地方創生に対する意識が変わってきたのではないかと感じているところであります。このあと事務局よりご説明申し上げますが、忌憚のないご意見をいただき、KPIの達成に向けて進めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

<企画課長>

・会議の進め方についてですが、本日は主に3つの議題とさせていただきますと思ひます。
 1つ目に、今年度は総合戦略を基に一昨年度に実施した「地方創生加速化交付金事業」に一層磨きをかけて効果を出していくために実施した「地方創生推進交付金事業」の平成29年度実施事業の結果について事務局及び実施担当部署より説明させていただきます、その後、皆様からご意見をいただきたいと思いますと思ひます。
 2つ目として、平成30年度実施分の地方創生推進交付金事業について、事業概要をご説明させていただきますと思ひます。
 3つ目として、一昨年(平成28年度)に実施した「地方創生加速化交付金事業」について、実施から5年間はその後の経過や検証を実施することとなっているため、平成29年度としてのKPI達成状況について事務局より説明させていただいた後、こちらも併せてご意見をいただきたいと思いますと思ひます。

議題

(1) 平成29年度実施分の地方創生推進交付金事業の評価

<座長>

・次第に従って議事を進めていきます。平成29年度実施分の地方創生推進交付金事業の評価について、まずは事務局より説明をお願いします。

<事務局>

地方創生推進交付金事業関係 資料綴り中資料1 平成29年度地方創生推進交付金事業(みらい

の「みたけ人」育成推進事業)実施結果一覧、**資料2**平成29年度地方創生推進交付金事業実施結果に基づいて事業内容を説明いたします。

※説明概要中略

また、**地方創生推進交付金事業関係 資料綴り**中**資料3**地方創生推進交付金 K P I 達成状況等一覧及び**資料4**各個別事業から得られたノウハウ等一覧を用いて説明を進めてまいります。

資料3中にあります、K P I を4つ掲げております。

K P I ①として「御嶽宿わいわい館の年間売上高」でございますが、達成状況として5,095千円と平成31年度(事業最終年度)の目標に掲げております450万円を上回る状況となっており、既に達成できている状況であります。その要因としまして、「みたけのええもん雇用創出事業」の他に、御嶽宿わいわい館の独自の事業や町外での観光P R 事業において物販の売上高を伸ばしたものであります。

K P I ②として「御嶽宿わいわい館の入館者数(年間)」でございますが、平成29年度の実施結果として9,187人となっており、目標としていました9,715人には及びませんでした。この要因につきましては、宿場まち人材育成事業により、御嶽宿周辺で活躍するプレイヤーの育成を図りましたが、実際にプレイヤーによる事業実施には至っておらず、御嶽宿わいわい館の入館者数の増加につながっていない状況であり、達成することができませんでした。

しかし、2月に地域まちづくり会社(一般社団法人てらす)が設立され、今後の新たな事業展開やプレイヤー同士を繋ぐ役割を担ってくれることを期待しているところです。

K P I ③として「環境学習講座の参加者数」でございますが、実施結果が571人ということで、こちらは平成31年度(事業最終年度)の目標に掲げております518人を上回る状況となっております。担当部署としては環境モデル都市推進室が掲げられておりますが、小中学校における講座に環境モデル都市推進室以外の部署も携わっておりまして、多くの講座を開催している成果でございます。

K P I ④として「工業団地における町内居住従業員率」でございますが、平成29年度の結果は20.9%となりました。平成29年度の目標としておりました20%を達成できている状況であります。このK P I には「地域課題解決型キャリア教育事業」が関係するわけですが、景気動向や企業の雇用方針等も影響するところでもありますので、思うような数値になりにくいところもありますが、平成29年度にあっては達成できている状況であります。「地域課題解決型キャリア教育事業」に参加した生徒からは概ね良好な声が聞こえている状況であり、町内企業に対する興味や関心が高まっていると感じることができています。平成30年度は通常の「地域課題解決型キャリア教育事業」の内容に併せまして、企業と生徒とが対話できるプログラムを実施したいと考えています。

資料4には平成29年度に実施した個別の事業から得られたノウハウをお示ししております。地方創生推進交付金事業の目的としまして、K P I の達成も重要ですが、事業を実施した中で得られたノウハウを蓄積していくことも求められていることから作成しているものであります。定まった様式はありませんが、事務局として作成させていただき、実施した事業から得られたノウハウを表にまとめております。

1 みらいの「みたけ人」育成推進事業について

<座長>

平成29年度に実施された個別の事業について、一つ一つご意見やご助言をいただきたいことと、**資料4**にありますノウハウについてご意見をいただきたいと思っております。

①みたけ創生みらいの人材育成協議会等運営事業

<座長>

当該事業は会議が主たるものとなるため、割愛します。

②地域課題解決型キャリア教育事業

<座長>

このような事業は大学等でも行われています。アクティブラーニングのように自分で考え、物事を解決していき、そのプロセスの中で能力を身に付けて行き、グループワーキングという意味で導入されつつある手法だと思います。

<齊藤委員>

具体的な実施内容についてご説明願います。

<事務局>

1つは魅力的な求人票を作成していただき、別のグループには実際に現場を見ていただき、地域課題の解決方法について提案をしていただいたりしました。また、別の事業所では外国人スタッフと日本人スタッフとのコミュニケーションを図るための解決策を提案していただいたりもしました。

※その他実施した際の成果品のパンフレットを配布し、説明。

<座長>

全ての生徒が全ての事業所を回ったわけではないですね。

<事務局>

グループに分かれて実施しました。その後、提案できる内容に仕上げ全参加者に向けての発表会を実施し、さらに優秀であったと評価されたグループは町主催の環境フェアにて一般住民向けに発表をしていただきました。高校生も事業所も一緒になって頑張っているというアピールの意味も含めて実施させていただきました。

<座長>

資料4の得られたノウハウについては、記述されているもの以外にグループで実施して意見等をまとめていることから、「コミュニケーション能力の向上」も上げることが出来ると思います。

<水内委員>

課題解決型でもありますので、資料4のノウハウの中に「地域資源の発見能力」も上げられると思います。

<黒田委員>

資料3の「K P I ④ 工業団地における町内居住従業員率」について、キャリア教育について、町内高校の町内居住者を増やすことから始める必要があると思いますので、町内中学校に対して東濃高校への入学に関するアピールが必要ではないでしょうか。町内居住割合を増やすためには高校入学の時点からスタートしないとK P Iに直接影響を与える前提が困難となると思います。町民の方が工業団地に勤めていただくか、工業団地内企業の従業員に町内に引っ越ししていただくことが必要となると思います。工業団地内企業の従業員に町内に引っ越ししていただくことを考えると、単身者用アパートはたくさんありますが、マンションや分譲地はあまりないと思います。また、保育情報について、子を持つ従業員の間で「あそこの保育園は延長保育が何時まである」ですとか、こんな保育サービスがあるといった情報交換をしていることを耳にすることがありますので、サービスに対する情報発信をもっと行っていただければと思います。

<座長>

永住というのは簡単にいかないことも考えられるため、町内の方にお勤めいただくことを優先的に考えてみてもいいかもれませんね。

③御嵩あかでんランド開催補助事業

<永井委員>

「御嵩あかでんランド」というものについて具体的な実施内容をご説明願います。

<事務局>

名鉄広見線（明智駅～御嵩駅間）をアトラクションに見立てて実施したイベントです。例を挙げさせていただくと、車掌さんのお仕事見学や、駅員さんによる電車に関わる知識を教えていただき、実際に御嵩駅から明智駅まで乗車し、実際のお仕事を目の当たりにして名鉄広見線について学んでいただくアトラクションですとか、旧名鉄八百津線の廃線跡のレールの上を歩きながら元名鉄職員の方に解説をしていただきながら地域の歴史や文化を学ぶウォーキングするもの。多くの事業者さんや団体の方にご協力いただき、子どもの職業体験を主としたアトラクション。その他に電車と競争するアトラクションや名古屋芸術大学の学生の方々に協力いただき、インスタ映えするように電車を取り入れたオブジェを作成していただきました。御嵩駅だけでなく、各駅でアトラクションを実施したものであります。

<座長>

住民主体の実行委員会が実施されたようですが、中心となっている年齢層はどのくらいの方でしょうか。また、具体的にどのような方が中心となっていますか。

<事務局>

地元で不動産業を営んでいる方や自動車整備工場を営んでいる30代が多く、20代も参加しています。比較的に若い方が中心となっています。

<座長>

2年連続して開催されていることからノウハウも蓄積されているように感じます。

<齊藤委員>

一昨年度よりも内容が充実してきていると思いますが、リピーターの数等は把握していますか。

<事務局>

リピーターの数を正確には図りかねたようです。しかし、アンケートを実施した結果ですが、一昨年度の開催時に参加されたお客様の回答として、キャスト（スタッフ）が「自分や子どもの顔を覚えてくれた」と喜びの声を上げていただいております。また、お問い合わせフォームに「ありがとうございました」等のお礼のメールも頂戴しているとのこと。県外からの参加者が増えてきているとのこととして、428名の参加の内訳として150名程度が町内からの参加者で、それ以外は全て町外からの参加となっております。近隣では名鉄は走っていませんが、多治見市や美濃加茂市からのご参加も多数ありました。

<齊藤委員>

お問い合わせフォームに寄せられた方に次年度の開催案内を通知することはしないのでしょうか。

<事務局>

お問い合わせフォームとしてご連絡いただいた目的外に使用するのは極力控えたいと考えているようです。もちろんホームページやSNSを活用しますが、実は名鉄さんが非常に協力的になっていただいております。ポスターを主要な駅に貼り出していることが遠方のお客様を獲得できている要因であると分析しております。

<齊藤委員>

例えばこの御嵩あかでんランドを実施する際に「みたけのええもん雇用創出事業」に絡めてチラシを掲示したり、配布したりすることは出来ないでしょうか。

<事務局>

9月に限定したイベントでしたので、掲示等については制限されます。実はイベント開催時にフードコートに出店という形でみたけのええもんを出品いただいております。

<座長>

これは地方創生推進交付金を活用されていますが、将来的には自立させていく方向という事でよろしいでしょうか。

<事務局>

実施計画上にございますが、1年目は100万円、2年目は80万円、最後は50万円と減少し、その翌年は完全に自主財源による開催としていく計画となっております。現在は各種経済団体の方々とコンタクトを取りながらスポンサーになっていただけないかですとか、オリジナル商品の開発に協力いただきたい旨をお話しさせていただいております。

<水内委員>

住民主体の実行委員会というところに意味があるように感じます。難しい内容かと思われそうですが、企画運営が出来ていること自体がすばらしいと思いますし、挑戦できていると思いますの

で、「企画力」というものも知識、経験として得られているのではないかと思います。

④みたけのええもん雇用創出事業

<座長>

岐阜県外で実施されているものもあるようですが、売り上げ以上に御嵩町のアピールが主であるように思われますが、品数としてはどの程度のものを並べられたのでしょうか。

<まちづくり課長>

みたけのええもん自体は現在 18 種類ございますが、みたけのええもん以外の出品もございました。それらを含めましておおよそ 30 種類の出品がございました。

<座長>

出展者は生産者の方々でしょうか。

<まちづくり課長>

委託事業で実施しました。生産者の方々に対して出店事業者を募集し、実際に会場で出店に参加されたのは 2 社でございました。

<座長>

もう少し出店に関するレクチャー等をしていくと良いかと思います。生産者は、生産能力は持っているものの、それをアピールするノウハウは持ち合わせていなかったりすることが多いと思います。

<黒田委員>

みたけのええもんの見直しをされてはどうかと思います。御嵩みそを作って下さっている農家生活改善グループの方々からは「高齢化で生産が追いつかなくなる不安がある」との声があるとのことですし、当社の社報でみたけのええもんに紹介できないかと企画を考えましたが、町内のわいわい館で伺ったところ、常時購入できるものが少ないと感じました。例えば、「ぽっこり緑茶」はあゆみ館に行かなければ購入は難しいですし、「みたけ華ずし」は予約制などの状況です。また、駅前にある「よつてりやあみたけ」というお店で「みたけからあげ」が販売されていますが、周辺の住民の方はその店が「よつてりやあみたけ」というお店である事も知らない方がみえました。数点のみたけのええもんは即購入可能だが、その点を現実的に見直された方がよろしいのではないかと思います。

<企画課長>

ご指摘いただいている事項については従前にもご指摘をいただいているところであります。わいわい館に行けば購入することが出来るという仕組みを今検討しているところではあります。わいわい館に行けば何でもあるようにしたいところではあります。少しずつみたけのええもんを認定させていただく中で、物品を増やしていきたいと考えております。また、まちづくり会社であります一般社団法人てらすが関与し、常時購入可能な商品を徐々にではありますが増やしていきたいと考えております。

<水内委員>

みたけのええもん認定制度を使って、少しでも地域の活性化に繋がると良いと思っておりますが、認定基準はございますか。

<まちづくり課長>

審査員による審査会があります。認定基準としまして、由来、実績、信頼性、市場性、PR性、原材料等の大きく分けて 6 項目を設けております。

<水内委員>

個々の商品としての売り出す力は弱いかもしれませんが、使い方次第だと思われまので、この制度がもっともっと個々の商品を応援できる仕組みになっていくと良いと思われま。

<まちづくり課長>

制度として、認定されてから 3 年経過すると再審査をすることとなっております。

<座長>

今は品数を増やす段階かもしれませんが、水内委員がおっしゃられたように御嵩らしさのシリーズとなるようにすることやアピール手法ももう少しスマートにすることも必要かもしれま

せん。

<まちづくり課長>

この事業でアンケートをとりましたが、「そこにしかないものが欲しい」との声を得ていますので、その点をもっと意識していきたいと思います。

<水内委員>

認定された商品を扱っている事業所にとってのメリットはあるのでしょうか。

<まちづくり課長>

平成 24 年度から認定を初めて 5 年ほどが経ち、町が認定することで全面的に PR をするというように始めてきました。認定用のシールやのぼり旗等を作ってきましたが、振り返ってみますと直接的に認定商品を扱う事業所の利益に直結しているかという疑問は否めませんでしたので、生産者の方々からの知恵や前向きな考えをいただきたいという事を考え、この度協議会を立ち上げたものであります。

<座長>

商品の後ろにストーリーが付いてくると魅力が増すのではないかと思います。

<永谷委員>

みたけのええもんのリストの中で、常時あるものと、そうでないものがあると思いますが、一つの手法としてそれらをカテゴリー分けしてみてもいいかでしょうか。例えば、保存が効くものと「みたけとんちゃん」をスコップの上で焼く等のライブ感を演出する必要があるものを分けて表現していけば今ある商品を共存させていくことが出来るのではないのでしょうか。

⑤みんなのみたけファンディング活用事業

<座長>

一風変わったものが成功しやすいと思われませんが、手法や可能性について知識等を得られたのは非常にいいノウハウかと思われませんが、[資料4](#)にありますノウハウは成功者がいない現状は表現として難しいのではないかと思います。参加された方の声を基に今年度実施される際のポイントにしていきたいです。

⑥外部人材招聘事業

<永井委員>

委託内容について教えてください。

<事務局>

当方も読み聞かせの講師との接点が少なかったため、教育に特化した団体として NPO 法人に委託し、講師のコーディネートを依頼しました。この NPO はこれまでに読み聞かせ事業として携わった経験もあるという事も考慮し、契約しました。

<永井委員>

この事業を踏まえて町の方は自主的な動きが出てきましたか。

<事務局>

偶然ではありますが、今年度小学生の保護者の方で父親による読み聞かせを実施したいと考えられているとの話をいただいております。

<座長>

読み手の質が上がるための事業であるとは思いますが、読み手の数が増えていくことも必要と感じました。

<齊藤委員>

これは保護者の方に対しても読み聞かせの重要性を伝えるものでもあるのでしょうか。

<事務局>

資料にもございますように 15 名の方に参加いただきました。その中には町内保育園にお子さんが通ってらっしゃるお父さんもお子さんと一緒に参加され、その場でそのお父さんによる読み聞かせも実演していただきました。

<齊藤委員>

対少数であったり、大人数であったりと講師によって読み聞かせの手法は異なっていて、正しい読み聞かせ手法は確立されていないと思われませんが、その場に応じて手法が異なることについて注意が必要となると思われます。また、**資料4**の課題に挙げられている内容として、「将来保育士等に携わることを希望している者への受講周知手法」と「高校等への参加の呼びかけ」とありますが、実際に東濃高校の生徒さんに月に1度音楽の授業として童歌を題材に来てもらっていますし、月に1度御嵩保育園では園児の祖父母が絵本を読み聞かせに来てくれています。そういったところと上手く絡めて、質の向上や絵本の読み聞かせの重要性をもっと伝えられたらいいと思います。

高校生の保育体験の内容をもう少し充実させていく中で、童歌だけでなく、読み聞かせも実際に授業として行っていただくと良いのではないかと思いますので、より一層この事業を活用していただきたいです。

<事務局>

町内の高等学校の先生に将来保育士を希望又は現在専攻している生徒さんに対してピンポイントでアプローチしていただきたい旨をお伝えしているところであります。

⑦ITプログラミング人材育成事業

<座長>

4種類のアプリを完成させる事ができたようですが、対象者は高校生が対象でしたでしょうか。

<事務局>

高校生以上の学生を対象として実施しました。

<座長>

各地でこのような講座が展開されているようですが、単にITプログラミングを行うだけだったのか、それと更に別途意図があったのでしょうか。

<事務局>

ITプログラミングは一つの媒体とさせていただいたものです。アイデアソンという地域住民の方々と一緒になって地域課題が解決できる取組みを実施しました。高校生をはじめとする学生は家から学校まで毎日通学していますが、自身が住んでいる又は自身が身を置いている地域のことを知るには限界があると考え、アイデアソンを実施する際、地域課題を抱えている住民の方又は団体の方に参加いただき、「あんな事が出来ないか」、「こんな事が出来るのではないか」と学生と一緒に考えていただきました。その結果としてアプリケーションのテーマを絞り込んでいきました。学生にとっては、大人とのコミュニケーション能力が身に付いたことや、地域資源の発見について学ぶ事が出来たと思っております。

<座長>

その内容であれば、**資料4**の参加者の欄について、単にプログラミング能力が付いただけでなく、地域資源の発見能力についても追記してよいと思います。

また、町側にとっても、ITプログラミングを媒介として世代間のコミュニケーションをとる事が出来る機会を創設できたということも記載してよいのではないのでしょうか。

<齊藤委員>

小中学校でプログラミングが必修となってきますが、教員が実際に使ってみたいアプリを開発して欲しい等の要望はあるのでしょうか。

<事務局>

ITプログラミングに参加しているのが高校生でありましたので、技術的レベルに応じた内容としたうえでの話しになると思われます。

<齊藤委員>

先ほど地域の課題発見という言葉が出てきましたが、アプリの開発について小学生などの子供たちによるもっと自由な発想が取り入れられてもいいのではないかとおもいます。小中学校の授業の中でアイデアを考えていただき、実際の開発は高校生が行うなどして役割分担を行う等、発想の一部に子供たちのアイデアが組み込まれていても面白いと思います。自分が考えたアイデアが具現化されることで、自分が将来もっと発展的なものを作りたいなどモチベーションの向上にもつながっていくと思います。

地域の良さを発見したこともそうですが、それぞれの事業単独で動くのではなく、それぞれが相乗的に結びついて高まっていく方法が出来ればよいかと思います。

<座長>

例を挙げれば、「②地域課題解決型キャリア教育事業」のような事業と被せていかなければいけませんね。

⑧環境教育事業

<座長>

この事業（環境都市交流プロジェクト）は、中学生を派遣して環境学習を体験してもらい、そこで得た知識を御嵩町で活かしてもらうという意図でしょうか。

<環境モデル都市推進室>

そうです。

<座長>

別途、環境教育教材として紙芝居を作成され、デジタルコンテンツを導入されたとのことですが、こちらについてはいかがでしょうか。

<齊藤委員>

自分たちが作ったものが形になって残るという事が学生にとって非常に良いことであって、是非これを続けていただきたいです。毎年新しいものを作って使うのか、毎年同じものを使うのかは難しいところだとは思いますが、できれば数を増やして行って、関わる子たちが変わっても、同じように毎年作る事が出来たり、例え一度町外に出てしまっても、帰ってきたときに自分たちが作ったものがまだ残っているということがすごく嬉しいことだと思いますし、是非そのような成果品を教育現場で活用していただけると良いと思います。この事業は素晴らしいものだと思います。

<座長>

町にとっては、コンテンツの蓄積が出来たというノウハウが得られていると思います。

⑨宿場まち人材育成事業

<水内委員>

資料3中のK P I ②の「御嶽宿わいわい館の入館者数（年間）」の「実施担当部署実施にあたっての自己評価及びコメント」の列に挙げられている内容についてですが、わいわい館を一般社団法人てらすが今後運営していくのでしょうか。

<まちづくり課長>

わいわい館周辺の賑わい作りを一般社団法人てらすが行っていくもので、わいわい館の運営そのものについての記述を意図したものではありません。一般社団法人てらすが優良な店舗を連れてきて賑わいを創出してもらい、それらをわいわい館に繋げていくものとしています。

<水内委員>

K P I ②との結びつきが難しいものではないかと感じました。K P I を達成するためにわいわい館の入館者数を増加させるというのも変な話かもしれませんが、結果として増加していくという理解になると思います。

また、わいわい館を「宿場まち人材育成事業」においてどのような位置づけとしていくかが重要であり、町としての考えを明確にしていく必要があると感じました。

<重政委員>

平成 29 年度のわいわい館入館者数の内、外国人観光客が 323 人とありますが、増えてきているという認識でよろしいでしょうか。

また、高山市や白川村では外国人観光客が増えているようですが、御嵩町の方針はいかがでしょうか。

<まちづくり課長>

わいわい館に立ち寄った外国人観光客が 323 人でして、把握できていない数値も併せると御

嵩町へお越しにいただいている方は約1,000人来ていると思います。外国人向けのウォーキングツアーの参加者数から拾い上げましてもおおよそ1,000人は来ていると思います。そして、観光基本計画自体がメインターゲットを外国人観光客としており、インバウンドの追い風に乗れ、進めていきたいと思っておりますし、御嵩町にとっても観光分野におけるラストチャンスであると思っております。これをこの5年間やっていきたいと思っております。また、中山道というものがブランドとして売り込みやすく、中部国際空港から1時間少々で来る事が出来ますし、御嵩町に向かうにつれて徐々にローカルな風景に変わっていくところも魅力であると感じていただいているようです。しかし、御嵩の宿場町には宿泊場所がなく、徒歩で瑞浪市まで行き、そこで宿泊されている現状ですので、なかなか思うように潤うことが出来ていません。そこで空き家等を活用してなんとか御嵩町で長期滞在できる場所を作りたいところでもあります。

<重政委員>

目指すところが無いとお客さんは来ないと思っております。これは日本人も同じだと思います。願興寺等あると思っておりますが、一番のアピールポイントですね。例えばさきほどの御嵩あかでんランドですとインスタ映えするスポットであれば、そこを全面的にアピールする中で多言語標記の看板を付けるとかも必要かと思っております。この辺りと言えば名古屋等の観光地と比べるとまだまだアピールポイントが少ないと感じます。実際に時々外国人観光客の方が街中を歩いたり、自転車に乗っている姿を見かけることがありますが、何を目的にして、何を見に行っているのかが分かりません。御嵩はいいところだよ、こんなものがある等の売りが無いという印象です。観光地は、メインになる場所があって、その周辺を見て回るというのがどこもある要素だと思います。今から作るのか、今あるものを活用するかの選択はあると思っておりますが、メインとなるものを表現していただくといいのではないかと思います。

<まちづくり課長>

外国人の方がどのようなものが見たいかというのは、多種多様であります。願興寺の改修が行われていますが、実際のところ御嵩町の見どころについてPRしながらも、把握しきれていない部分もあると思っております。大よそ2,000箇所ほどはあると思っておりますが、それらを洗い出し、分類し、お示しできるように今年度取り組んでおり、今年度中の完成を目指しているところですが、これは補助事業ではなく、まちづくり課職員自らが手作業で行っています。

<齊藤委員>

わいわい館を含め、アプリを活用して色々な場所にチェックインしたらポイントが付与されてある程度ポイントが貯まると特典がもらえるような仕組みはあるのでしょうか。

<まちづくり課長>

複数の施設や場所をコースに含めて設定しておいて、あと1つか2つ行けばポイントもらえるから行ってみよう等思わないでしょうか。せっかく来たならもう少し行ってみようという人の心をくすぐる要素があってもいいと思っております。そうしたらわいわい館の入館者数の増加にも繋げていけるのではないのでしょうか。

御嵩あかでんランドも同様ですが、色々な箇所を回ったら、そこでしか、その時でしかもらえない記念になる物がもらえると子供たちのモチベーションにも繋がっていくと思っております。

<黒田委員>

中山道みたけ館がわいわい館の近くにありますが、その2階に非常にいい展示がしてあります。中山道、亜炭鉱、隠れキリシタンに関する資料等素晴らしい展示がしてあり、しかも無料なのですが、あまりPRされていないように感じます。御嵩駅から歩いてすぐの場所にあるので、歩いて行く事が出来ない観光地を紹介するよりもよっぽど手軽に行く事が出来ると思っております。中山道みたけ館に行ってくださいだけでも満足していただけるのではないのでしょうか。

<座長>

平成29年度実施分の地方創生推進交付金事業の全事業に関する評価について、**資料3**を見る限り、KPI②に関しては目標値に達していないものの、実施した事業そのものについて概ね良好であるとの印象を受けます。9つそれぞれの事業の評価として「有効であった」と

評価したいと思いますが、いかがでしょうか。

※出席委員全員賛同（異論なし）

順調、かつ、有効であると結論付けさせていただきます。

議題

（２）平成 30 年度実施分の地方創生推進交付金事業に係る事業説明

<座長>

それでは事務局より説明願います。

※説明概要中略

地方創生推進交付金事業関係 資料綴り中参考資料 1 地方創生推進交付金 御嵩町事業実施計画概要及び参考資料 2 平成 30 年度地方創生推進交付金事業みらいの「みたけ人」育成推進事業）に基づいて説明。

※委員からの質問等なし

議題

（３）平成 28 年度実施分の地方創生加速化交付金事業に係る経過検証

※説明概要中略

地方創生加速化交付金事業関係 資料綴り中資料 1 地方創生加速化交付金 K P I 達成状況（経過一覧）参考資料 1 地方創生加速化交付金事業実施概要を使用して説明

※平成 29 年度から開始した地方創生推進交付金事業が地方創生加速化交付金事業（２つの計画）の内容を引き継いでいる。検証内容は地方創生推進交付金事業の効果検証内で議論されたとして K P I の達成状況について説明や議論は完了されていると判断されたため、委員からの発言はなし。

閉会あいさつ

<企画課長>

本日みなさまからいただきました、平成 29 年度実施分の地方創生推進交付金事業の効果検証及び皆様よりいただきましたご意見を平成 30 年度実施分の地方創生推進交付金事業へ活かし、K P I の達成に向けて、事業を進めてまいりたいと思います。今後の有識者会議につきましては、本日ご説明させていただきました地方創生推進交付金事業の 2 年目について、来年度に評価いただきたいと考えております。

また、今年度においても、来年度の主要事業決定の際に総合戦略の見直しなどが必要になりましたらご意見を頂戴したいと考えております。

なお、次回の日程につきましては、改めて調整させていただき、皆様にご案内させていただきますのでお願いいたします。

それでは、閉会にあたり企画調整担当参事よりご挨拶させていただきます。

<企画調整担当参事>

長時間に渡り、貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。本日いただきましたご意見につきましては念頭に置いて実施してまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくをお願いいたします。本日はありがとうございます。

以上